

令和5年度 第1回八尾市自殺対策計画審議会 議事概要

1 日時：令和5年7月24日（月） 午後2時30分～午後4時00分

2 場所：八尾市保健所2階 大会議室

3 出席委員

委員17名中12名出席（うち1名は議事途中で出席）

4 内容

1) 委員紹介

2) 会長・副会長互選

委員の互選により、会長は竹島委員、副会長は山本委員に決定。

3) 会長挨拶

◆会長

次期自殺対策計画をたてるにあたり、この計画が何のためにあるのかということを考えなければならない。自殺対策は、様々な原因で困っている人、心が辛くなっている状態にある人に何らかの支援をしていくことを考えるが、その元となる原因が精神疾患や医療の話だけとは限らない。様々な背景問題がある中で、関わる者みんなが手をつないで支援していく土台をつくっていくもの。この計画そのものは、つながりを作っていくものになり、関係する機関や部署は多いが、無暗に裾野を広げて効果的な自殺対策が実行できるものではない。実態に応じて、何ができるのか、何をしなければいけないのか、それは実行可能なのか等話し合っていきたい。そのために色々な意見を戴くことが大切であり、委員の皆さま方には積極的にご意見を発信していただきたいと思っている。

◆副会長

委員の皆さまと共に、八尾市の八尾市らしい自殺対策推進計画を策定していきたいと思っている。

4) 評価部会の設置について

会長より評価部会委員の指名。

竹島会長、山本副会長、都村委員、川野委員、稲垣委員、亀崎委員の6名を評価部会委員とする。

5) 議事

(1) 八尾市における自殺の現状について

- ・ 資料 1 に沿って事務局より説明

(2) 八尾市自殺対策推進計画の進捗状況について

- ・ 資料 2 に沿って事務局より説明

◆会長

自殺対策推進計画の進捗状況を説明して頂いたが、行政としての自己評価はどうか。

◆事務局

現在の計画は令和元年度からの計画となっており、新型コロナの流行によって、思ったようにゲートキーパー養成講座等実施できない状況であった。しかし、新任主査研修内でゲートキーパー養成講座や、教育委員会と連携した教員への研修実施等、継続して取り組めることを実施してきた。今後は、新型コロナの状況も踏まえながら、新たな対策を考えていく中で、より積極的な取り組みをしていく必要があると考えている。

◆会長

その他にご質問はあるか。

◆副会長

自殺者数について、八尾市は増加していることが注目されると思うが、この原因を分析するのは難しい。男性の自殺死亡率が増加した点について、何か把握していることがあれば教えて頂きたい。

◆事務局

自殺死亡率の推移について、(資料 1 の 3 ページ)、大阪府・八尾市・大阪市・東大阪市、の推移をみると、男性では、大阪府・大阪市・東大阪市ともにすべて右肩上がりに増えている状況の中で、八尾市は一旦少し減少し、再び増加している。

女性の傾向についても、八尾市以外は全般的に右肩上がりになっているが、八尾市は減少傾向にあり、大阪府・他市とは、少し傾向が違うのではないかと感じている。

しかし、八尾市という一自治体の状況として、これらの理由や背景等を明確にすることは難しいと感じている。

◆会長

現在の計画では、目標の中で市内の自殺死亡率の減少を掲げており、基盤整備として、自

自殺対策に役立つツールキットの開発やゲートキーパー受講者数の一定の確保等を挙げている。新型コロナ等様々な社会的な要因による影響があるが、そういった状況下でも、基盤整備を進めることで自殺死亡率が増加しづらくさせることが重要である。

(3) 次期計画策定について

- ・ 資料 3 に沿って事務局より説明

◆ 会長

こころの健康に関する市民意識調査（資料 4）の構成について。

まず表紙では、こころの健康に関する市民意識調査についての趣旨を説明している。

調査の内容については、地域とのつながり（ソーシャルキャピタル）、どんな悩みやストレスがあるか、インターネットの利用状況、実際に困ったときに相談できる人がいるのか、新型コロナによってどんな生活変化があったのか、自殺についてどのような認識を持っているのか、実際の相談窓口について市民の方がどのような情報を持っているのか、実際に身近な方の自殺を経験したことがあるのか等の設問を作っている。

これから次期計画を立てていくが、自殺は複雑な要因が絡み合って生じる問題であり、わかっていること・出来ることを大事にしながら、地域に適した対策を行っていくことが重要である。

各委員よりご意見を頂きたい。

◆ 住民代表者

社会福祉協議会では生活困窮者自立支援事業や市から委託を受けた相談事業を行っているが、ケース対応の際に対象者が亡くなっていたという経験をしたことがある。自死されたケースを対応した専門職の職員への心のケアについて、八尾市や大阪府で頼れるところはあるのか。

計画の目標（資料 2）において、つながるカードについて記載されている。相談を受けた際、関係機関にスムーズにつなぐために使用するものと認識しているが、現在も利用しているのか。

◆ 住民代表者

つどいの広場で子育て支援をしているが、その中で、子どもを抱えながら生きづらい、どうしてよいか分からないという声を聞くことがある。就労移行支援事業所でカウンセラーとして市民と接する中で、生きづらくなり、就労移行支援事業所へ辿り着いたという人もいる。カウンセラーの仕事をする前に、ゲートキーパー養成講座を受講したが、講習の内容が大事なものだとは思いますが、講習を受けた自分自身もしんどいと感じ、難しい内容であると感じた。

残された方は、なぜ自死に至ったのか理由が知りたくて仕方ないという思いを抱えていると思う。目の前でそういうことを話されたときに、どのように対応したらいいのか、何ができるのかと考えている。

◆事務局

【つながるカードについて】

本市に適した自殺予防につながるツールキットとして、令和元年7月より試行実施した。複数の問題を抱える相談者が、問題を解決するために、相談を受けた部署が適切な相談窓口へ事前に連絡をした上で、次の行き先のご案内をするというツールキットである。

“市民にはわかりやすいツールで良い”という意見があった一方で、“相談者の人に直接渡すのは使いにくい”“職員が直接または同行でつなぐ方がより丁寧ではないか”という意見もあった。

令和3年度より、八尾市につなげる支援室が創設された。断らない相談支援体制ということで、重層的な相談体制ができるような体制構築を行っている。それを踏まえ、つながるカードについては発展的解消となったが、つなげるカードの理念はつなげる支援室の重層的相談支援体制の中で活かされている。

【自死や自傷事例に対応した方の心のケア、支援者への支援について】

相談業務を行う中では、残念ながら自死される方がいると思う。保健所では自死遺族等への相談支援を行っている。相談があった際には、自死遺族の家族会等の案内を含めて、必要な支援をしている。

相談支援者自身への心のケアは非常に重要であると感じている。保健所で支援を行う中で、医療機関に適切につなげられる等、良い形で支援できていると思っている状況下でも、自死された方がいた。一人で抱え込まないように、周囲の同僚と話をする、複数の関係機関で連携することが大切ではないかと考えている。

◆会長

この内容は、次期計画策定においても重要なポイントだと考える。

◆関係行政機関の職員

警察の生活安全課の保安係と保健所で連携し、自殺未遂者への対策を行っている。警察が自殺未遂者に対応した際、警察から本人やその家族へ、相談窓口として保健所があるということ伝えていく。

対応したほぼ全件について保健所への情報提供の了解を得るように努めているが、プライバシーの面もあり、了承を得られないケースが多い。本人や家族からの了承無しには、警察から保健所への情報提供は行えない。対象者の了解を得られるように、どのような説明を

行うべきか。また、そういった方々が、匿名で相談できる場所はあるか。

◆その他市長が適当と認める者

地域包括支援センターでは高齢者の様々な相談を受けており、自殺に関わる相談について多くはないが、全ての相談に対して、丁寧に寄り添って関わるようにしている。

ケアマネジャーの資格では5年に一度研修を受ける必要があり、その都度大切なポイントを思い出す。ゲートキーパーについても、養成講座を受けて終了ではなく、相談支援の方法について定期的に学べる機会があってもよいと思う。

コロナ禍において、可能な範囲でゲートキーパー養成講座を実施されてきたと思う。退職等もあり、市職員のゲートキーパーは当初より増えていない。ゲートキーパー養成講座の回数を増やす必要があるのではないか。

◆関係行政機関の職員

支援者への支援について、大阪府こころの健康総合センターのホームページでリーフレットをダウンロードできるため、参考にして頂きたい。支援者の心のケアについては注視したい。

相談支援に関わる者が、対象者のつらい気持ちに気づき、早期に対応する必要がある。私共では、自殺対策について様々な機関への普及啓発を行っている。支援者が自身の関わりを振り返ることができ、相談支援の中で、自傷や自殺の可能性等を意識しながら関わるができるよう、高齢・教育関係機関等に自殺の現状をお伝えする等、気づきを促していければと考えている。

◆事務局

【匿名での相談について】

八尾市こころといのちの相談では、匿名での電話・メールの相談を受け付けている。

【ゲートキーパー養成講座について】

昨年度本審議会の中で、ゲートキーパー養成講座の内容を振り返れるよう、ゲートキーパーテキストを作成している。ゲートキーパー養成に関する取り組みもさらに進めていきたいと考えている。

◆会長

自殺未遂者について、警察から本人へ保健所を紹介する際に、情報提供の了解を得る必要があるが、対象者にとって自身の情報がどのように取り扱われるのかは重要な問題である。自殺未遂者支援事業において、警察が個人情報の扱いを対象者へどのように説明するかは、もう少し議論が必要であろう。

相談支援の事業所等現場を見ていると、異動や退職が多く、人材育成は容易ではないと感じる。自殺予防の観点を含めた相談支援の研修ができるようにするにはどうすればいいか、検討していく必要がある。

◆医療関係者

薬剤師の視点から、オーバードーズ（多量服薬）の問題が挙げられる。市販の薬を多量服薬し、自殺に繋がるというケースがある。自殺の手段について現状を把握したい。

ゲートキーパー養成講座を受講して、時々内容を思い出すこともあるが、いざその場に直面すると、うまく対応できるかと言われれば難しいと感じる。

◆医療関係者

歯科の視点からは、自殺に関わることはほとんどないものの、歯の痛みや片頭痛があるものの原因が分からない等の訴えがあり、「もう死にたいわ」と発言される方もいる。以前受けたゲートキーパー養成講座の内容を頭に思い浮かべながら対応することもあり、今後もゲートキーパー養成講座を広げていく必要があると感じる。

自殺の推移についてのデータ（資料1）を見ると、八尾市全体の自殺者数の推移はほぼ横ばいである中、50代男性の自殺者が著明に増加している。その層にどのようなアプローチができるのか考えることが出来ればと思う。

提示されているデータは既遂のみ。自殺未遂者についても、個人情報の問題はあると思うが、行政がより積極的にアプローチできればよいのではないかと感じる。

◆医療関係者

書籍“自殺防止の手引き”（2023.6.27出版、金剛出版）では、希死念慮を訴えることはハイリスクのリストに入っていないと記されている。言い換えれば、希死念慮を聞いた身近な家族や精神科医師ですら、自殺を予見することは難しい。現場でも、警察や家族から、患者が自殺をしたという話を聞き、驚きを感じることもある。支援者ができることは「間違っただけをしない」「その時にできることをする」ことに尽きるだろう。過度に自責的にならないこと、支援者自身のメンタルマネジメントを十分に行うことが重要ではないか。

◆会長

オーバードーズについて、最近女性の自殺未遂者の手段としても増加傾向にあり社会問題となっている。国としても女性支援について打ち出しており、その部分ともつながってくるのではないか。

見た目そんなに亡くなるようにみえづらい人が自殺で亡くなることがある。事例の分析をしなければ見えないことがあるのだろうと感じた。

◆事務局

【多量服薬について】

5年間（2018～2022）の自殺者の手段別の状況としては、縊頸（首吊り）63%、飛び降り17%の順に多く、服毒は3.7%となっている。服毒に服薬が含まれているかは不明である。

【自殺未遂者への支援について】

自殺未遂者へのアプローチについては、警察と連携して、自殺未遂者支援事業として、必要な支援をしている状況である。

【特定の性別・年齢層へのアプローチについて】

八尾市においては、50代男性の自殺死亡率が増加している。職業別のデータ（資料1 6ページ）を参照すると、有職者の自殺者が増加している。あくまで可能性であるが、新型コロナによる雇用への影響等も考えられるのかもしれない。

◆会長

警察で、精神障がい疑われ自傷他害性があるような場合は警察から保健所に通報があり対応される。それ以外で、自殺企図や希死念慮がある方がどのように精神保健相談につながっていくかが大切であろう。

◆学識経験者

国や大阪府において女性の自殺者が増えているという点について、原因は複雑で複合的要因があり、なかなか難しい問題であると感じる。現状このような状態であるというデータを、ぜひ最前線にいる専門職の支援者（つなげる支援室・生活福祉課のワーカー・地域包括支援センター等）にも状況を知ってもらうことで、注意喚起が促されるのではないかと感じる。これらの状況について、管理職から担当者へ伝える、保健所から研修やその他の伝える場があるのか教えてほしい。

新型コロナも5類感染症になり、これからゲートキーパー養成講座も多く開催されると思う。一般市民に向けてのゲートキーパー養成講座は続けてほしいと思っているが、それとは分ける形で、最前線で市民に接する専門職に向けての研修も必要ではないか。支援者への支援という要素も含めたゲートキーパー養成講座や、あるいはそれに準ずるトレーニングのようなものが必要ではないかと思う。

◆副会長

多くの委員からゲートキーパー養成講座についてご意見いただいている。自分自身、ゲートキーパー養成講座を受講すると、「しんどい」、「難しい」と感じることもある。ゲートキーパー養成講座については、達成目標として挙げられているが、ゲートキーパーが活躍でき

るような手法を考えていく必要があり、ゲートキーパーテキストを作成しているが、他にも研修受講後のフォローが必要であると思う。既遂があったときに、支援者は「自殺を予見できなかった」、「自分が失敗した」という思いを持ち、どうしたら良かったのかという思いが残ってしまうため、その事態に直面した支援者のフォローにもなるのではないか。

自殺未遂者への支援について警察と保健所が連携されているが、役割が異なる機関であり連携の難しさはあるのだろうと感じる。今後多角的な連携が必要ではないか。

八尾市のつなげる支援室は、重層的な支援を行っている部署であると聞いているが、市民広報誌を見ると、市民目線では「重層支援って何なのか？」と分かりにくいのではないかと感じた。今後、市民の人へ分かりやすくどのように啓発していくのか。

◆会長

【こころの健康に関する市民意識調査について】

こころの健康に関する意識調査の内容については、今週中に審議会委員の皆様の意見をいただき、意見を取り入れて完成させるということとする。

調査票の構成について、最初に“あなた自身についてお尋ねします”と個人のことを聞かれると、回答者に抵抗が生じることが想定されるため、回答者の属性については後半へ移動してはどうか。

新型コロナによる影響の有無を問う設問も入っており、どのような方たちが影響を受けているのかを分析し、計画に反映できればと考えている。

【自殺の実態について】

統計上の数字のみでは、男性が増えた等漠然と推察することしかできず実態把握が困難であるため、既存の事業を活かしながら、事例検討や未遂者支援事業等のケースを分析して、どのような理由や背景で自死へ繋がっているのか、実情を明らかにすることで、遺族支援も含めた支援に繋がっていくのではないか。

◆事務局

【自殺の現状の共有について】

庁内で共有する場については、市長をトップとした自殺対策推進会議を設けており、その場において自殺の現状を伝えている。八尾市全体で取り組みをしていきたいと考えている。

【こころの健康に関する市民意識調査について】

市民意識調査については、今週中にご意見をいただき、会長と諮りながら決定していきたい。

◆幹事課（地域共生推進課）

つなげる支援室の進める重層的支援体制をどのように分かりやすく周知するのは検討しているところである。事例をあげてわかりやすく、困りごとに応じた相談先や連携の方法を示していきたい。

つなげる支援室には、年間 200 件以上のケースが繋がってきている。特徴的に感じることは、今年度に入り、税の窓口や国民健康保険の窓口、水道局等を含めた関係機関からの相談増えているということである。窓口で対応する中で、「本人がお金の相談以外にも、困りごとあるのではないかと」と職員の中で気づきが生まれてきたのではないかと考えている。市民への周知方法についても引き続き検討し、つながるカード以上の効果を出していきたいと考えている。

◆事務局

既遂事例や自殺未遂者支援を協議する中で、「なぜこの人は亡くなったのか」「なぜそのような行動を試みたのか」と、背景要因を知ることが難しく、無力感を感じることもある。

エビデンス・ベースド・メディスンが近年重要視されているが、背景要因を把握しづらい中でもゲートキーパーの寄り添い支援の効果が間違いないということを認識して支援していきたいと思っている。ゲートキーパーの支援についてのエビデンスについてご意見いただきたい。

◆会長

ゲートキーパーという言葉は幅広く使われているため、一概にエビデンスを述べにくい。市民へのゲートキーパー養成講座は啓発に近いものである。

ケースワークをする支援職がゲートキーパー的視点をもつことに関してはエビデンスのあるものを紹介できるのではないかと考えている。

今回の会議で意見があったように、ケースワークの中で適切な支援方法・様々な課題を理解する研修等とリンクさせることで、ゲートキーパー養成講座のさらなる発展が期待でき、エビデンスの高い方法となるのではないかと考えている。

◆副会長

何事も実際のどの程度の効果があったのか、検証しながら進めていくことは重要であるが、自殺については特に効果検証が難しいと感じている。我々自身が支援していた方の自死を経験したときに、支援者としてどうしたら良かったのかを検証できれば良いが、あまり踏み込んで実施できていないことだと思っている。エビデンスを求める作業は大切だろう。

◆会長

今後、ご遺族の意見をお聞きすることが重要ではないかと感じている。遺族の方からの意

見を聞き、言葉の使い方で遺族が傷つき、理解されていないと感じることもあるよう。皆に通じることは何なのか、検討してみることが必要ではないか。

自死遺族の方への支援について、川野委員から意見をいただくことを検討したい。

◆住民代表者

健康の増進として、運動と栄養という両面からの健康づくりを指導している。自殺対策ということに関して、運動や栄養という面で、何か自分が力になれることがあれば、一緒に学びながら、協力していきたいと感じている。

◆会長

本日委員の皆様にご頂いた意見の中から、事務局でキーワードを拾い、各委員へそのキーワードの趣旨に相違がないか確認する必要がある。そのキーワードが次期計画策定の大事な要素になるであろうと考えている。

次回の審議会までに間が空くため、評価部会の設置等を検討し、今後のことを細かく決めていく。

(4) その他：事務局より連絡

- ・ 次回の自殺対策計画審議会については、11月8日を予定している。
- ・ 第3回自殺対策計画審議会についても、12月頃に開催を予定しているため、後日委員の皆様にご予定の確認をさせて頂く。
- ・ 審議会委員の所属する関係団体に向けて、令和5年9月22日にゲートキーパー養成講座を開催予定である。

6) 閉会